

30526
教科書文庫

3
810
31-1887
20003
02811

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

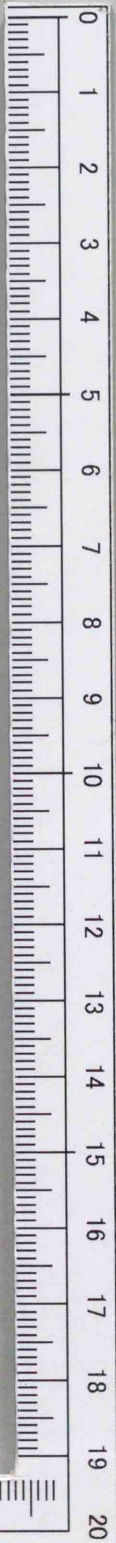
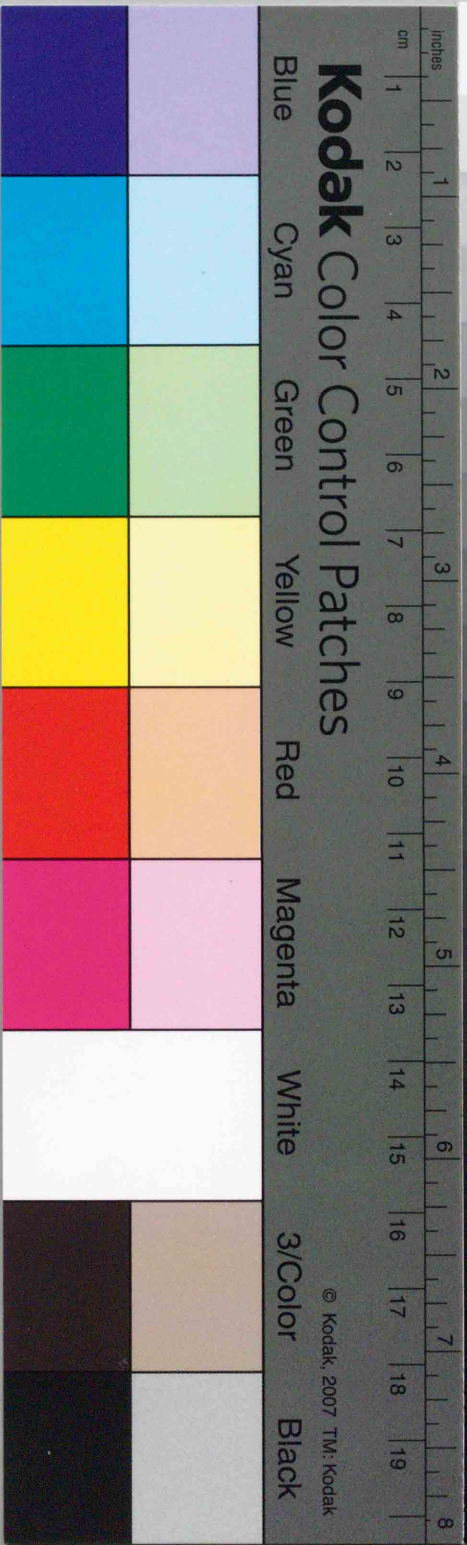


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



3759
Uc8
資料室

實用讀本
尋常科
卷五



室 料 資
館 書 中 央

廣 島 大 學 書 庫 印

廣 島 大 學
32498

廣 島 大 學 書 庫 印

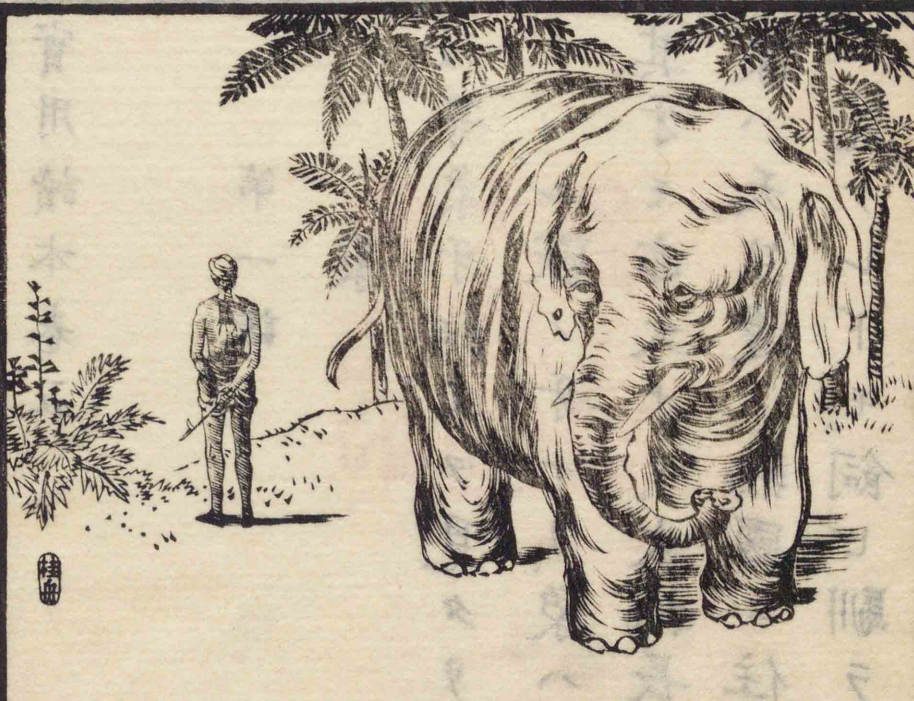
實用讀本卷五

第一課

象

汝等象牙細工ヲ見タリシナラン。コレハ象ト
イヘル獸ノ牙ナリ。象ハ大ナル獸ナルガ故ニ。
其牙モ亦大ナリ。大抵長サ三四尺アリ。
象ハ天竺邊ノ熱國ニ住ム者ニテ。山ニ居ル時
ハ荒ケレドモ。飼ヒ馴ラセバオトナシキ者ナ

實用讀本 卷五 一 三書房



リ。故ニ其地ノ人ハ之ヲ飼ヒテ牛馬ノ如ク使フトナリ。此圖ヲ看ヨ。目ハ至テ細ク。耳廣クシテ鼻頗ル長シ。凡ソ生キ物ノ中ニテ。象ノ鼻程不思議ナルハナシ。其鼻人ノ手ノ如キ働ヲナシ。

其草藁ヲ食ハントスル時ハ。鼻ノ尖サキニテ握リ。ヨク扱キ揃ヘテ口ニ入ル。マタ針杯ノ細キ物ヲモ拾ヒ取ルコトアリ。總身厚キ皮ニテ。毛ハナキガ如ク。足ハ太クシテ短シ。我國ヘモ渡リタル者アレバ。汝等ノ中ニハ。或ハ見タリシ者アラシ。其色多クハ薄黒ナレドモ。白象トテ白キモノモアリ。白キハ佛ノ再來ナリトテ。天竺ニテハ。多ク尊ミ崇ムトイフ。愚ナル限リナリ。

第二課

時計

汝等時計の文字を知る。時計の文字ハ。即ち
數字よて。一より十二に至る。次よ出だせるを。
初より次第よ讀み下さば分るべし。

I II III IIII V VI VII VIII IX X XI XII

汝等之を覚えて。再び時計を見よ。時計の上よ
ハ。二本の針あり。一ハ長くして。一ハ短し。長
きハ分を示し。短きハ時を示す。

長き針の廻りて。字より字よ移る間ハ。五分よ
して。十二時残らず廻れば。一時間あり。又短き
針ハ。字より字に移れば。一時間よして。長き針
と同一あり。汝等時計の鐘を打つ時。長針ハ
常よXIIを指し。短針ハ。其打つ鐘の數字を指し
と知るべし。

汝等時計を見て。時を言ふんとせば。必だ此二
本の針を見ざる可あり。短き針ハ。何時何時
と。時數を示し。長き針ハ。何分何分と。分數を示

すものよて。譬へば十二時を打ちたる後。長き針のⅡの字を指す時ハ。十二時三十分過なり。

第三課

時計 其二

昔時計ノ無カリシ頃ハ。漏刻トイフ者アリタレドモ。今ノ如ク並々ノ人ノ家ニハ無カリシナリ。此漏刻トイヘルハ。水ヲ器ニ盛り。其水ヲ静カニ洩シテ時ヲ數ヘシナリ。汝等漏刻ノ理ヲ知ラントセバ。先ヅ玩具ノ噴

出シヲ求メ。噴出シノ水ヲ「ガラス」ノ筒ニ受ケシメ。二十四時間立ちタル時。其筒ノ水面ニ印ヲ付ケ。是ヨリ底マデヲ二十四ニ分ケテ筋ヲ引キ。筋毎ニ數字ヲ記スベシ。儲翌日ノ眞晝ニ至リテ。其水ヲ棄テ。コレヲ噴出シノ下ニ置カバ。溜リシ水ノ高サヲ見テ。其日ノ時ヲ知ルコトヲ得ベシ。例へば其水十ト記セル所ニアレバ十時ナリ。昔ノ人ノ漏刻ヲ作りシハ。此理ニ從ヒシナリ。

又砂漏トテ。砂ヲ以テ水ニ代ヘタルモアリ。漏刻ト砂漏トハ。常ニ心ヲ用ヒザレバ。久シク續クコトナク。且ツハ細ニ時間ヲ知リガタシ。故ニ今ノ時計出デ來テヨリ。漏刻ノ類ハ。誰モ用フルモノナキナリ。

第四課

飛魚

汝等。生き物の中よて。空を飛ぶ物ハ。何とウ思へる。空飛ぶ物ハ。先づ鳥類あり。次ハ虫類なり。

虫類よて飛ぶものハ。蝶。蜂。蟬。螢の類。數多ト。獸類の中よて飛ぶ者ハ。蝙蝠あり。此外魚類の中よ空を飛ぶ者あり。空飛ぶ魚ハ。形鱗の如きものよて。左右の鱗甚ど大よトテ。これよて飛ぶあり。此魚我國の南海よ



住みて。常は海^イ豚^カ魚といへる大なる魚は捕らる。故は海豚魚を見る時ハ。忽ち水中より飛び出でて。逃ぐるものあり。故は飛^{トビ}魚^{ウツ}といふ。飛魚の飛び出づる時ハ。其數幾千足といふこと。を知らず。皆日光は輝きて。恰も白き水鳥の波の上は群り翔るるが如し。此魚煮て食ふべし。或ハ鹽よして賣る者あり。圖中。頭のみ見ゆるハ海豚魚よて。鰭を張りたるハ皆とびの魚なり。

第五課

地球 地球ハ一圓ニシテ。世界ハ一圓ニシテ。地球ハ一圓ニシテ。世界ハ一圓ニシテ。

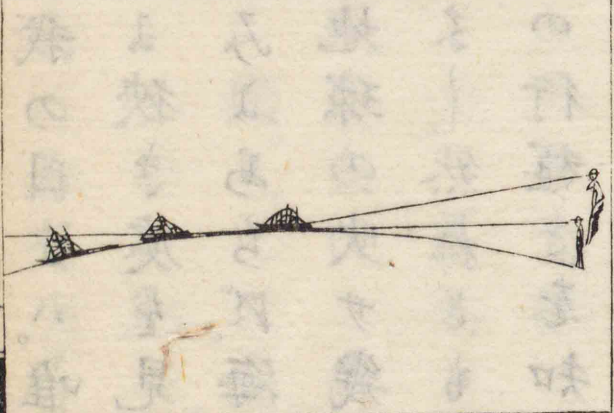
汝等。世界ノ形ヲ知ルカ。世界ハ圓キモノナリ。故ニ地球トイフ。球トハ「タ」トイフ事ナリ。汝等海邊ニ立ち。船ノ遠クヨリ來ルヲ見バ。初ハ唯檣ノ頂ノミ見エテ。外ニハ何モ見エザルベシ。是レ其立ツ處ト船トノ間ニ。水面高ク反リテ眼ヲ遮ルガ故ナリ。而テ其來ルノ時ハ。次第ニ檣ノ下ノ

方顯ハレ出デ。又近ヅク時ハ。船ノ全身ノ見ユルニ至ラン。若シ海ノ水面反リ起ラズハ。初ヨリ一目ニ其船ヲ見ルベキ筈ナリ。又海上ニテ船ヨリ陸ノ方ヲ眺ムル時ハ。先ヅ山ノ頂見エ。次第ニ近ヅキテ後ニ陸地ノ見ユルモノナリ。是レ地球ノ形圓キ證據ナリ。イトモ事ナリ。此外世界ノ圓キ證據トスベキハ。船ヲ一方ニ向ケ。久シク行クトキハ。終ニ世界ヲ一週シテ。再ビ出帆ノ地ニ歸ルナリ。

第六課

地球 其二

爰ニ描々るハ。望遠鏡よて海上を望める圖ナリ。最も近き船ハ全身見え。次ハ半見え。又其次ハ。唯檣の頂のみ見ゆるあり。世界の圓きハ。右よて知るべし。故ヨ天より此世界を見下す時ハ。唯大なる球の如く見ゆるあり。然るニ今我



我の目よハ。唯平ふる者の如く見ゆるハ。僅る
 よ狭き處を見るガ故あり。但し其圓きハ陸の
 みよあらば。海も亦圓きものありと知るべし。
 地球の大サ幾何ぞ。甚ど大よして譬ふるよ物
 あり。然れども人間一日の行程と。汽車の一日
 の行程とを知らば。略不其大サを知るよ足ら
 ん。今地球の周圍を歩行をることを得て。一時
 間よ一里餘を歩み。一日よ十時間を歩むとせ
 ば。之を一週せんよ。凡そ三年を経べし。又汽車

よて晝夜兼行をとすれば。凡そ一月を経べし。
 地球の周圍ハ大凡一萬里よして。其直經ハ大凡
 三千三百里あり。

第七課

農夫ト鴻

或農夫田ヲ蒔キ付ケタルニ。鶴來リテ啄ミ荒
 ス故。コレヲ捕ラヘントテ。網ヲ張り置キ。日暮
 ニ往キテ見ルニ。多クノ鶴カハリ。内ニ一羽ノ
 鴻ノ鳥交リ居タリ。

時ニ鴻ノ鳥ハ哀ナル聲ヲ出シテ。我ハ鶴ニハアラス。我ハ蔭付ケタル穀物ヲ食ヒタルコトナシ。我ハ露程モ罪ナキ鴻ノ鳥ニテ。親鳥ニモ苦勞ヲカケヌ孝行ナル鳥ナリ。仰ギ願クハ憐ミ玉ヒテ。オシユルシ玉ハレト



イヘド。農夫ハコレヲユルサズ。愈々頭ヲ堅ク攫ミテ。汝ノ云フ所少シモ偽リナカルベシ。然レドモ穀物ヲ荒ス鶴ト共ニ交リ遊ビタルハ。汝ノ不幸ナリ。故ニ汝モ鶴ト共ニ其罰ヲ受クベシトイヘリトゾ。其友惡ケレバ。其身正シトイヘドモ。信ズルモノナシ。

第八課

大坂

大坂ハ攝津の國ヨアリ。三府の一ヨテ。今ハ頗

る繁華の地なれども。三百年の昔よ立歸る時
ハ。浪速の浦の濱邊よて。淋しありける田舎な
りしなり。

抑々此府を開きしハ豊臣秀吉なり。秀吉ハ大
閤とて。朝鮮征伐を志たりし人なり。大閤ハ尾張
の百姓の子なりしが。志大よして鋤鋤をとる
事を好まば。兎角よ弓馬を以て身を立てんと
せり。

此頃世の中ハ今の有様と大よ變り。天子ハあ
れども無きが如く。國々處々よ英雄ありて。我
意を張り。日夜戰爭を事とせしより。弱き者ハ
常よ強き者の肉とふりしなり。
此時尾張よハ。織田信長といへる者ありて。隣
國處々の英雄を撃ち從へ。勢旭の如く盛なりし
よ。時の帝も深く世の中鎮撫の御頼といせ
られたり。斯る勢故。大閤ハ此信長よ仕へ。數度
の戰爭よ功名を顯し。間もふく一方の大將と
ふりし處よ。信長不慮の害よ會ひしより。亡君

の孫を守り立て。帝の御守護とならる。是より勢益盛よなり。終よ十餘國の人夫よ課せて。大木大石を運バ一め。新よ大坂の地よ城を築きて。これよ居り一なり。此頃和泉國堺の港ハ最も繁華よて。大町人も夥多ありけるより。此町人どもを多く引寄せ。終よ一大繁昌の府を開き一ハ。實よ天正十一年の事なりき。

第九課

石板

汝等。石板ヲ持テリヤ。石板ハ柔カナル石ニシテ。薄ク切ルコトヲ得ベキモノナリ。コレヲ石板石トイフ。石板石ハ山ノ側ヨリ切り取ルナリ。其切り取ル處ヲ石切場トイフ。大坂ノ用リ石板ノ中ニハ甚ダ柔カナル者トヤ、堅キモノトアリ。其ヤ、堅キモノハ石板ト爲シ。柔カナルモノハ石筆ト爲シテ。石板ノ上ニテ。文字ヲ書クニ用フルモノナリ。石板石ノ堅キモノハ。唯石板ノミニ作ルニアラ



ズ。其外様々ノ事ニ用フ。西洋ニテハコレヲ以テ屋根ヲ葺キ。恰モ我が邦ノ瓦ノ如ク用フ。故ニコレヲ切り出ス事最モ盛ナリ。コレヲ切り出ス處ハ。人夫何レモ多ケレドモ。其中數千人ノ多キニ至ルモ少ナカラズ。石板石ヲ盛ニ切り出ス處ハ。常ニ火藥ヲ用ヒテ。コレヲ爆裂セシメ。其大ニ破レタルモノヲ引キ割リテ。薄キ板トハ爲ストイフ。

第十課

一息

或る人其弟を戒めて曰く。汝性急よ。て物いひ甚どせし。向後物言はんとき。必^イど一息して。後よ語れ。言葉せしき時。言ひ損^イドありて。後日不都合の事あるものを。弟畏りて。向後ハ必^イど一息を^イべ^イと曰ふ。暫くして兄よ謂て曰く。我ハ一息せりと。兄の曰く。好^イ。言はんとき。如何なる事ぞ。弟の曰く。前^イき程買ひたる魚ハ。今猫來りて



も必ぞ一息して後よ言ふあるべし。我嘗て聞

ける事あり。或る人其弟子を戒めて曰はく。語
らんとする時ハ。必三たび考へよと。他日其人
の衣服ハ火附きたるを。其弟子見て。吾ハ只今
三たび考へたり。先生の衣服ハ。火附きて大ニ
焼けんときといへば。先生驚きて。何故ハ早く
告げざるといふ。さればあり。先日物言はんよ
ハ。必ぞ三たび考へよと仰せらまし。よよれる
のみと。汝ガ如きも亦此子の類あり。

第十一課

卵

鳥類ノ卵ハ食物トシテ人ノ養トナルモノ
 甚ダ多シ中ニハ牛肉ト其効同ジキモノアリ
 且ツ鳥類ノ卵ハ何レモ怖レズシテ食ラヒテ
 ヨシ。鳥類ノ外ハ斟酌スベシ。外國ニテハ龜類
 ノ卵鱈ノ卵ヲモ食ラフ所アリ。
 卵ハ殼ト白身ト黃身トノ三ツヨリ成リテ。殼
 ノ質ハ多ク石灰ナリ。殼ノ内ニハ薄キアマ皮
 アリテ。其中ニ白身黃身アリ白身ハ濃クシテ

透明ナル者ナリ。汝等之ヲ透シ見バ。猶水ノ如
 クナルベシ。然レドモ之ヲ湯ノ中ニ入レテ煮
 ル時ハ。此水白キ塊ト爲ル。之ヲ蛋白トイフ。即
 チ白身ナリ。滋養ノ効多ケレドモ。水分多クシ
 テ味ナシ。
 黃身ハ。黃色ナル濃キ水ニシテ。卵ノ中央ニ在
 リ。之ヲ蛋黃トイフ。煮ル時ハ堅ク乾キテ塊ト
 爲ル。其質脂ヲ多ク含ミテ。四分ノ一ハ皆脂ナ
 リ。又水ヲモ含メドモ白身ノ如ク多カラズ。

第十二課

凡そ鶏の卵ハ

其二

凡そ鶏の卵ハ。其量清水より重きものよて。之を清水の中よ入る。時ハ。沈みて其底よ至るべし。然れども鹹水よ比ふれば輕きものあり。鹹水とハ鹽を含める海水をいふあり。試みよ腐れぬ卵を取り。之を水呑の中よ置き。之よ鹹水を注ぎて半よ至らしめよ。卵ハ必ぞ鹹水の上よ浮ぶべし。是時。其上よ清水を注ぎ

見よ清水ハ鹹水より輕き故よ。その卵の上より。故よ。卵ハ鹹水と清水との界よ在るべし。凡そ卵ハ豎よ立つれば。大ある力よ堪ふれども。横よをる時ハ堪へずして。忽ち破る。者なり。今小き箱の内よ卵を入れ。之を豎よし其上よ。重き石の類を載るも百目を一斤として。二十七斤の重サよ至るまでハ。決して破ること無し。

第十三課

愚僕

ムカシオホナカトミスケチカ大中臣輔親ト云フ人アリ。或ル歳。軒近
 キ梅ニ。毎朝鶯ノ鳴ケルヲ喜ビ。其友ヲ招キテ
 歌ヨマントシ。僕ヲ呼ビテ。鶯來ラバ飛ビ去ラ
 又様セヨト云ヒ附ケ、リ。ハ、
 翌日。夜明ケテ。其友集リ來ニケレバ。輔親
 喜ビテ。此梅ニ來テ鳴クナリ。暫ク待チ給ヘト
 テ。トモニ待チケルガ。鳴カズ。輔親堪ヘカ子テ。
 僕ヲヨビ。イカニ鶯ハマダ來ヌカト問ヘバ。僕

ノ曰ハク。先程來リシガ。
 飛ビ去ルベク見エタル
 故。押ヘ置キタリトテ退
 キタリ。輔親イブカリ居
 タルニ。僕ハ死シタル鶯
 ヲ木ノ枝ニ結ヒツケテ
 持チ來レリ。輔親愕キテ。
 コハイカニシツルト問
 へバ。昨日キノフノ仰ニ。鶯來ラ



寶冊詩林 卷五

三書房藏

バ。飛ビ去ラスナトノタマヒシ故。矢ニテ射留
メシナリト云フ。客モ主人モ。コレヲ聞キテ大
ニ呆レ。皆興サメタリシトイフ。
汝等。此僕ノ行爲ヲ何トカ思ヘル。此僕。事ノ心ヲ
辨ヘズ。アナガチニ鳥ヲ射トメタルハ。愚ナル
限ナラズヤ。汝等。ヨク心シテ。此僕ノ行爲ニ似
タルコトスベカラズ。

第十四課

櫛と葦

昔。年古りたる櫛カシの木あり。數百年來。幾度カ風
雨カよ遇カひたれども。曾カて折れ倒カき。事無カあり
り。或る日。俄カよ暴風カよ遭カひて。圖カらずも根本
より吹き折カらき。遂カは川中カよ倒カき。櫛ハ一
旦水底カよ入カり。再び浮カき出カづる。其枝カよ多く
觸カる。者あり。何カあカと見カれば。川の中カよ生カひ茂
りたる葦カあり。
櫛の木ハ思カひば聲カを揚カげ。ア、誰カぞと思カへば。
葦カよてあり々る。君カハ生カ來カ細カくして。手弱カき

身ふるよ。此暴風よも恙なく。吾ハ君より太く
して強きよ。却て害せられハ。返あくも不審
なりといふ。

葦ハこれを聞き傍より細き聲よて。君ハ如
何ふれバ此理よ闇き。これ誠よ知り易き道理
よあふぞや。平生君ハ太くして強きを恃み。我
慢の心増長して。暴風をも物の數とせざりし
より。却て其害よ遇ひしなり。我ハ生來細くし
て。手弱き身ふれバ。常よ心を用ひ。暴風よ遇へ
バ。必ず頭を下げて。其意よ逆ふことあく。其吹
き去る時よ至りて。再び頭を上ぐればなり。其
時日輪を望めバ。日輪ハ满面よ笑を含みて。吾
グ恙なきを賀せりといひしとぞ。

第十五課

陸ト水

陸ノ周圍ハ皆水ナリ。コレヲ海トイフ。陸地ニ
多クノ國々アリ。國ノ中ニテ。家店人數ノ多ク
集リタルヲ。都邑ト云ヒ。都邑ノ大ナルヲ。都府

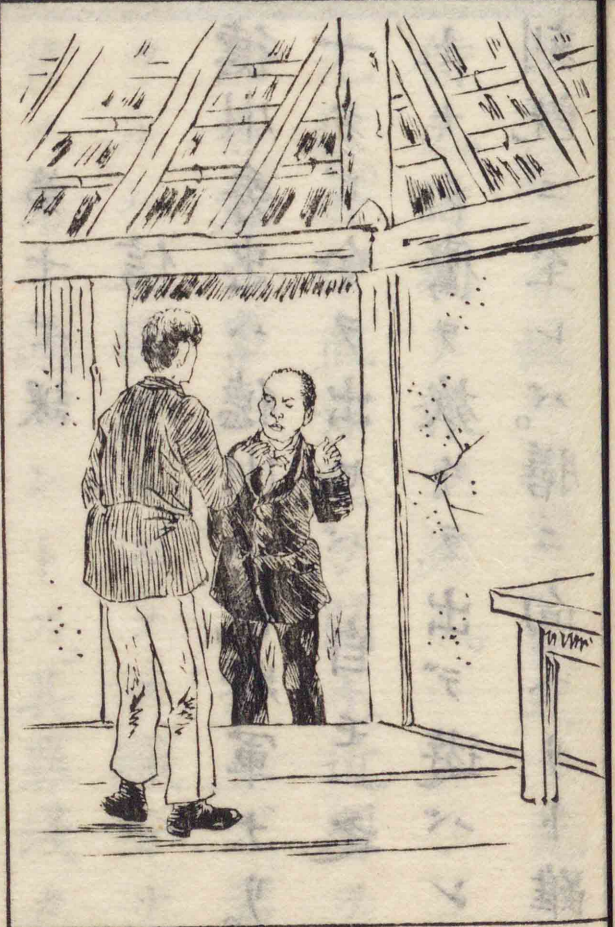
ト云ヒ。小ナルヲ市邑ト云フ。村ハ家ノ少シク
 集リタルモノナリ。陸ノ上ハ。總テ平カナル者ニアラズ。高キ處ア
 リ。低キ處アリ。其高ク起レルヲ山トイヒ。低ク
 シテ平ナルヲ野トイフ。山ノ上ヲ頂ト云ヒ。下
 ヲ麓ト云フ。山ト山トノ間ハ谷ナリ。
 水ノ涌キ出ヅル所ヲ泉トイヒ。ソレヨリ流レ
 テ小川トナリ。小川小川ト落合ヒ。次第ニ大川
 トナリテ。末ニハ海ニ入ル。

川ノ廣クシテ流ノ早カラヌハ。船ヲ泛ベテ
 荷物ヲ運ビ。旅人ヲ通ハスニ便利ナリ。流ノ
 急ナルハ。水車ヲ仕掛ケテ。物ヲ造ルニ便利ナ
 リ。海ハ船ノ運送尤モ便利ナレドモ。折ニハ難
 風ノ恐アリ。汝等。船ニ乗ルコトヲ好メリヤ。風ナキ時ハ。隨
 分心地好キモノナリ。

第十六課

智

野蠻の民も不思議の智ある者あり。或時亞米利加の土人外より家へ歸きバ。一間懸け置きたる鹿の肉を盗まれたり。其人家の内外をよく見て。獨り領く所へ一人の朋友入り來れば。主人こきよ向ひ。汝今長々低き老人の短銃を荷ひ。肉を携へ小犬を伴ひたるを見ざり。やと問へバ。朋友答へて曰ハク。見たり。此を去ること遠く徑と。主人聞てそれこそ。我が肉を盗める者なれとて。逐ひあけ行き。遂に其



肉を取り返すといふ。後よ或人その故を尋ぬるよ。主人の曰ハク。盗人の長々低きハ。懸けたる肉を取るよ。庭よありたる石を持來り。之を踏臺としたり。知れり。其老人ありハ。靴痕の短く離れたるよ。知まり。又

其銃の短ふりハ。之を立て懸けたる。壁の磨き痕よて知り。犬の小ふりハ。足痕の小ふるよて知りたりと語りトとぞ。

第十七課

信

徳川秀忠ハ。徳川二代將軍ナリ。平生行ヲ謹ミ。一タビ令ヲ出セバ。自モ之ニ違ヒタルコトナシ。鷹ヲ放チテ出デ遊バントスル毎ニ。時刻既ニ至レバ。膳ニ向ヘリト雖モ。忽チ箸ヲ投

ゲテ起テリ故ニ近習ノ臣之ヲ見テ。其食ヲ終ルヲ待テ。時刻ヲ報ジタリ。老臣井伊直孝之ヲ聞キ。近習ヲセメテ曰ハク。汝等。君ニ事ルコトヲ知ラズ。君ヲ引テ道ニ當ツルハ。人臣タルモノ、職分ナリ。今僞ヲ以テ。君ノ意ニ適セントス。其罪淺カラズ夫レ法令一タビ定マレバ。山岳崩ルト雖モ。動カスベカラズ是信ヲ重ンズル所ナリ。且ツ民ヨリ上申アラシニ。間ニ在ル者コレヲ斟酌セバ。人民何

ニ由テカ。君ガ正シキヲ好ムヲ知ラン。是ヨリ
上下アヒ隔リテ。人々怨ヲ生ジ。姦臣是ヨリ事
ヲ成サントス。汝等嚴ニ後來ヲ慎メト。

第十八課

鳥と狐

己の面前よて譽むるも。誠と思ふべからず。居
ざる時よハ憎むものあり。己の面前よて従ふ
も。喜ぶべからず。後よハ背くものあり。憎むと
背くハ。其害淺々れども。面前よて譽め。面前よ
て従ふハ。利得を貪る者多し。若し驕慢の心あ
りて。これを喜ぶ時ハ。往々其阱よ陥るものあ
り。油斷をべからず。

鳥ハ。其聲惡しきものあり。然るよ自ら其惡し
きを知らず。或日。餌を銜みて樹の上よ止り
るよ。飢ゑたる狐これを見て。其餌を奪いんと
す。下より聲を和らげて。君ハ美聲よして謠を
よくせりと聞き。態々聽きよ來りしあり。願く
ハ一曲聽かせ玉へといふを。鳥ハ誠と思ひ

て大に喜び。口を開て謠をんと。をれバ。銜みし
 食ハ忽ち落ちよなり。狐之を拾ひて曰く。後
 日君が謠を望むものあらバ。假りよも之を信
 と思ふべからば。必ず故あるものなりと。
 自慢の心内ある時ハ。あゝる欺きよあふこ
 とあり。深く慎むべし。

第十九課

此レハ二人ノ子供。相連レ立チテ。野ニ出テ共

ニ木蔭ニ休メル繪ナリ。今此繪ヲ見ルニ。草ハ
 生ヒ茂リテ。木ノ葉繁ゲレバ。必ず夏ノ景色ト
 見エタリ。又其
 子供ヲ見ルニ。
 甲ハ木ノ根ニ
 據リ。肱ヲ地ニ
 カケ。手ニ本ヲ
 持チテ讀ミ。乙
 ハ之ヲ聽キテ



甚ダ樂シキ様子ナリ。

試ニ問フ。甲ハ何ヲカ讀メル。其聲聞コエザレバ。何トモ知リガタケレドモ。甲ノ讀ムヲ聽キテ。乙ノ喜ベルヲ知ルノミ。

乙ハ物ヲ言ハザルニ。争デカ其喜ベルヲ知ル。顔ノ様子ニテ知ラル、カ。曰ハクサナリ。其顔笑ヘルハ。嬉シキ事ノアルニアラズヤ。

人ハ顔色ニテ。心ノ内モ知ラル、モノナリ。故ニ平生心ヲ平ニ持チ。人ニ逢フ時ハ。必顔色ヲ穩和ニシテ。愛敬アルベシ。若シ心ノ内ニ。怒レル事ト不快ノ事アル時ハ。忽チ其顔ニ顯ル。其尤モ顯ハレ易キハ。怒氣ノ烈シキ時ナリ。能々慎ムベシ。

第二十課

往けと來れ

曾て豪農あり。田地夥多持ちたるが。主人の游惰ふりより。家産次第に衰へて。借財のみ多くあり。終に田地も半ば失ひ。残りハ小作人よ

預けて作らせたる。それより十年程経て。小作人の云へるやう。彼の田地ハ。我ハ賣り玉ハぞやと。主人大ハ驚き。汝如何ふれバさる身分ハふりつる。我ハ以前。今の二倍の田地を持ちて。小作米をも拂ヒ事無アリ。年々貧しく成りて。終ハ今の有様とふれる。汝ハ小作米をも拂ひふり。年々富裕ふり。彼の田地をも買ハんとするハ。抑々如何ふる故ぞ。

小作人笑て云ふやう。此事のみ怪む足らぬ。君ハ自ら耕さば。唯婢僕ハ命ドて。早く田へ往け。畑ハ往けと云ふの。我ハ人ハ先立ちて耕し。早く來れと招くのみ。此往けと云ひ。來れと云へるこそ。君と我と。榮枯得失の分る。所ふれと。味ある答ふり。

第二十一課

蟻ト阜蝨

夏モ過ギ秋モ暮レテ。冬枯ノ小春日ニ。蟻ドモ

多ク打チ集ヒ。夏ノ頃ヨリ貯ヘタル食物ヲ。日
ニ晒ストテ。穴ヨリ引キ出シ居タリシニ。飢エ
疲レタル阜蝨。ヨロメキ來リテ。聊カ其食物ヲ
分チ玉ハレト乞ヒタルニ。老イタル蟻。コレヲ
見テ。如何ニモ君ハ「キリ」ズヨナ。夏ノ間ハ何
ヲシテカ暮シ、ゾ。又何ノ故ニカ食ニ苦メル
ト問フニ。阜蝨ハ誇リ顔ニテ。夏ノ間ハイト面
白クコソアリツレ。花ニ戯レ。葉ニ眠リ。口ニ露。
身ニハ。羅衣歌ヒモシ。舞モシツト言ヒモ果テ

又ニ。老イタル蟻ハ頭ヲ打フリ。斯クテハ合力
無用ナリ。我等ハ夏ノ炎天ニ脊ヲサラシテ。餌
ヲ運び。此冬枯ノ用意セシナリ。サレバコソ今
日ノ安心アレ。永ノ夏ノ日舞ヒ歌ヒテ。徒ニ日
ヲ送リテハ。冬ニ至リテ飢エナンコト。常ノ道
理ナリトテ。與ヘザリシトゾ。
コノ話喩ナリ。汝等ヨク味ヒ悟ルベシ。

第二十二課

鳥

此は畫々るハ鶏あり。鶏ハ嘴あり。嘴ハ只鶏
のみあるはあらず。凡べて鳥ハ嘴あるも
のなり。其嘴ハ長きもあり。又厚



きも薄きものあり。皆
其餌を啄む所あり。鳥ハ
ハ五穀を食らふあり。種タチ
類を食らふあり。又小
虫を食らふあり。
鳥類の目ハ頭の側ハあ

り。故ハ一時ハ左右の物を見る事を得。又翼ハ
左右一枚づゝあり。鳥ハこれを開きて飛び行
くものあり。
鳥ハ常ハ空中ハ居るものハあらず。水中ハも
住むもの多シ。鶯、白鳥、鶯鳥、鷗、千鳥の類ハ常ハ
水ハ住むものあり。
又鳥ハ脚ありて。これにて其餌を殺シ。其餌
を捕へ。或ハ地を搔き。或ハ木ハ登り。或ハ歩む
ものなり。

鷺ハ脚よて其餌を捕へ。其餌を裂き。雞ハ足よて地を搔き。種を拾ひ小虫を求む。啄木鳥ハ小き鳥よて。木の上を上下をるゝ甚ど巧あり。木の皮の小孔を窺ひ。其中よ住む虫を求む。鳥ハ大低四本の指ありて。三本ハ前よあり。一本ハ後よあれども。啄木鳥よハ。前後よ各二本の指あり。

第二十三課

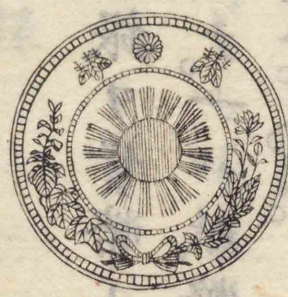
貨幣

世間通用ノ金銀ヲ貨幣トイフ。之ニ二種アリ。一ハ正金ニシテ。一ハ紙幣ナリ。我國ノ正金ハ。金。銀。銅ノ三種ニシテ。其形皆平圓ナリ。面ニハ文字ト。丸龍。菊桐。日輪。杯ノ模様アリ。銅貨ニハ。一厘アリ。五厘アリ。又一錢。二錢アリ。汝等。菓子ノ類ヲ買ハズシテ。一厘五厘ヲ畜へナバ。日ナラズシテ。數百錢ヲ得ベシ。若シ數百

銅貨



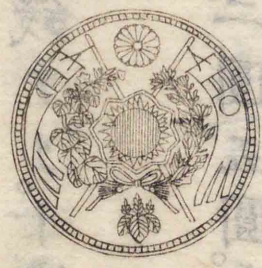
銀貨



金貨



金貨



錢ヲ蓄へ得テ。書物ヲ買ヒ小刀ヲ買ヒ。或ハ靴。帽子。時計ノ類ヲ求メバ。其樂ミ永クシテ。菓子ヲ食ラフニ百倍スベシ。

銀貨ニハ。五錢アリ。十錢アリ。二十錢。五十錢。一圓アリ。

金貨ハ。一圓。二圓。五圓。十圓。二十圓ノ五種アリ。金貨ノ一圓モ。銀貨ノ一圓モ。一錢ノ銅貨百枚ニ當ル。一錢ノ銅貨ヲ積テ。一圓ニ至ルマデハ。隨分日ヲ經ルモノナレドモ。又思ヒノ外ニ早

キモノナリ。此一圓ノ金ヲ以テ。衣服ヲ求メバ。隨分相應ノモノヲ得ベシ。衣服ハ必要ノ品ニテ。永ク消滅セズ。菓子ハ無益ノ物ニテ食ラヘバ。忽チ消滅ス。此言小ナレドモ。以テ大ニ及ボスベシ。

紙幣ハ紙ニテ作り。金銀銅貨ト。全ク異ナレドモ。金銀ニ比スレバ輕クシテ。携帶ニ便ナリ。紙幣ニ二種ノ別アリ。一ハ政府ヨリ發行スルモノト。一ハ政府ノ許可ヲ得テ。銀行ヨリ發スル

モノトナリ。又外ニ日本銀行ヨリ發行スル。兌換銀行券ト稱スルモノアリ。...

明治二十年二月二十一日 版權免許
同 二十年三月 出版
同 年九月三日 訂正再版御届

編輯人

千葉縣平民

内田嘉一

本郷區駒込西片町十番地

出版人

埼玉縣平民

長島爲一郎

北足立郡鴻巣宿百廿五番地

同

東京府平民

牧野善兵衛

日本橋區通四丁目七番地

同

東京府平民

吉川半七

京橋區南傳馬町二丁目十二番地



